

令和6年度
事務事業評価（二次評価）

アンケート結果

（評価者編）

（説明者編）

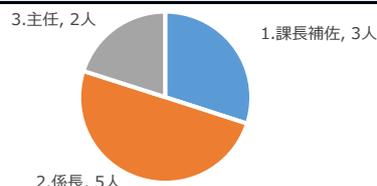
■ 令和6年度事務事業評価（二次評価）アンケート結果（評価者編） ■

回答数：10

1.職名について

■設問1 あなたの職名を教えてください。

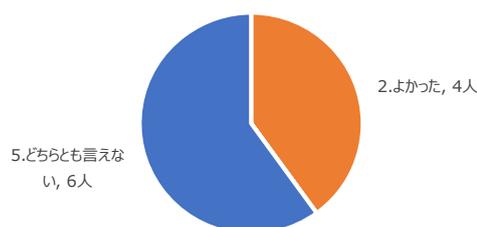
1.課長補佐	3人
2.係長	5人
3.主任	2人



2.二次評価への参加について

■設問2-1 二次評価に参加してよかったですか？

1.とてもよかった	0人
2.よかった	4人
3.あまりよくなかった	0人
4.よくなかった	0人
5.どちらとも言えない	6人



※上記の回答を選択した理由を教えてください。

○よかった

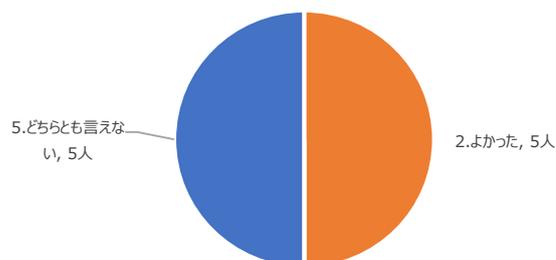
- ・ 縦割り・横ぐしで事業を見ることができる機会となった。
- ・ 他課の事業について勉強することができた。
- ・ 他課の業務の内容等詳細がわかりました。

○どちらとも言えない

- ・ 他課の事業が知れたことは良かったですが、知識不足によりの確な質問、またそれらを踏まえた判断ができたとは思えない。
- ・ 他課の事業ということもあり、質疑はできるが当たり障りのない評価に終始した感じがします。

■設問2-2 職員（課長補佐・係長・主任）と行政改革推進委員・行財政経営マネジメントアドバイザーとの混成チームで二次評価してよかったですか？

1.とてもよかった	0人
2.よかった	5人
3.あまりよくなかった	0人
4.よくなかった	0人
5.どちらとも言えない	5人



※上記の回答を選択した理由を教えてください。

○よかった

- ・ 外部からの視点での評価や考え方が聞けたのは良かった。
- ・ 行財政経営マネジメントアドバイザーさんは事前に良く調べられてきており、職員だけの視点以外で新たな発見があり、良かったと思います。職員で二次評価に負担があることは分かるが事前の下調べをしていない職員もあり、職員の不勉強が目立つ場面もあった。
- ・ 多角的な視点をもつきっかけになった。
- ・ 一般的な視点、受け取り方、民間の合理的考え方等が直に聞いて勉強になりました。

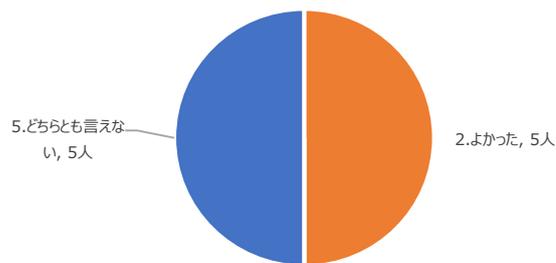
○どちらとも言えない

- ・ 民間目線での意見がいただける点については、良いと思う。しかし、ご意見の中によっては偏りのある意見になることもある。
- ・ アドバイザーがいることで一定の緊張感は保てたと思う。一方、職員がいることの意味をあまり感じなかった。

3.二次評価の内容について

■設問3-1 評価シートの構成は分かりやすかったですか？

- | | |
|-------------|----|
| 1.とてもよかった | 0人 |
| 2.よかった | 5人 |
| 3.あまりよくなかった | 0人 |
| 4.よくなかった | 0人 |
| 5.どちらとも言えない | 5人 |



※上記の回答を選択した理由を教えてください。

○よかった

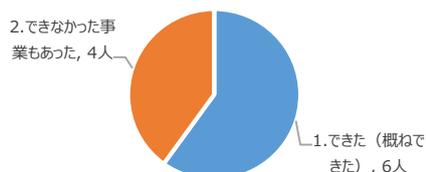
- ・ 必要な項目、構成だったと考えます。
- ・ 経年の中でブラッシュアップされていると感じる
- ・ わかりやすいシートだと思います。
- ・ 構成そのものはわかりやすかったが、きっちり作成してあるものや、明らかに辻褃の合わないものがあり、事前調整の必要を感じた。

○あまりよくなかった

- ・ 評価シートの構成は特に問題ないと思いますが、課によってきちんと事業評価していない評価シートや項目を増やして評価している場合があり、分かりにくい場合もあった。また、これからの事業の方向性を評価するのに、次年度を想定した事業の増額など趣旨とあっていない場合も見受けられた。

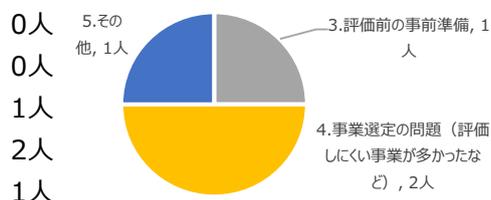
■設問3-2 全体を通して説明者と十分な意見交換ができましたか？

- | | |
|----------------|----|
| 1.できた（概ねできた） | 6人 |
| 2.できなかった事業もあった | 4人 |
| 3.全体的にできなかった | 0人 |



■設問3-3 設問3-2で「2.できなかった事業もあった」「3.全体的にできなかった」と回答された理由を教えてください。（複数回答可）

- | | |
|----------------------------|----|
| 1.説明者の説明や事務事業評価シートの内容 | 0人 |
| 2.ファシリテーターの進行 | 0人 |
| 3.評価前の事前準備 | 1人 |
| 4.事業選定の問題（評価しにくい事業が多かったなど） | 2人 |
| 5.その他 | 1人 |



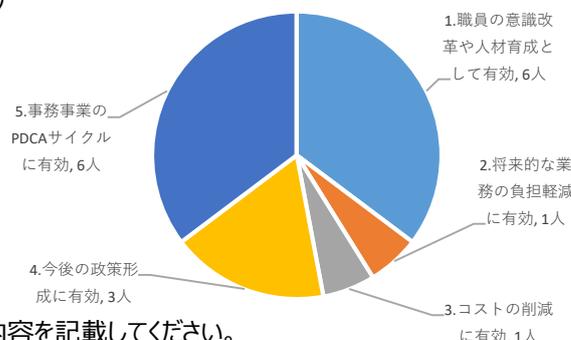
※上記で「5.その他」を選択した場合、その内容を記載してください。

- ・ 時間が無くて十分な質問ができなかった。

4.二次評価の有効性について

■設問4-1 二次評価は有効だと思いましたか？（複数回答可）

- | | |
|---------------------|----|
| 1.職員の意識改革や人材育成として有効 | 6人 |
| 2.将来的な業務の負担軽減に有効 | 1人 |
| 3.コストの削減に有効 | 1人 |
| 4.今後の政策形成に有効 | 3人 |
| 5.事務事業のPDCAサイクルに有効 | 6人 |
| 6.選択肢以外のことにも有効 | 0人 |
| 7.有効なことではない | 0人 |



※上記で「6.選択肢以外のことにも有効」を選択した場合、その内容を記載してください。

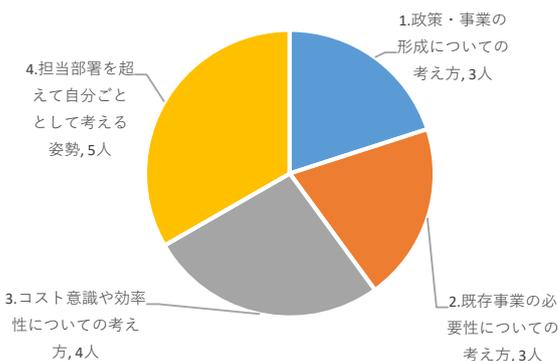
無し

※上記の回答を選択した理由を教えてください。(カッコ内の数字は選択肢の番号)

- ・若い職員などは事業を深く知るひとつの契機となり、説明すること質問に答えるなど人材育成に寄与している取り組みだと感じます。業務の負担軽減やコストの削減などは、担当職員、担当課が事業を継続する方向性を示しているならば、他課職員が2次評価で減額や削減などの評価をしめすことは難しいと思いました。(1)
- ・意識の変容が行動の変容につながる。つまり、将来的な業務の負担軽減を考える、コスト効果を見ながら事業を遂行する、検証をする、これらによって、今後の政策形成に活かされると思う。(2)
- ・意識や観点変えることには有効だが、事業のスクラップには結びついていない。(1, 4, 5)

■設問4-2 二次評価に参加して、身についたことはありますか？(複数回答可)

- | | |
|---|----|
| 1.政策・事業の形成についての考え方
(目的や成果指標の考え方が身についた等) | 3人 |
| 2.既存事業の必要性についての考え方
(優先度や判断の基準が身についた等) | 3人 |
| 3.コスト意識や効率性についての考え方 | 4人 |
| 4.担当部署を超えて自分ごととして考える姿勢
(町政全体を考える広い視点が身についた等) | 5人 |
| 5.選択肢以外のこと | 0人 |
| 6.特に身についたことはない | 0人 |



※上記で「5.選択肢以外のこと」を選択した場合、その内容を記載してください。

無し

※上記の回答を選択した理由を教えてください。

- ・複雑多様化する課題へのアプローチとして、事業単独の効果だけを追い求めるには限度があり、その効果も限定的になる可能性もある中で、連動・一体的な効果を見据えた事業展開を考えられるのではと感じた。(4)
- ・民間の合理的考え方等が直に聞いた。(3)

5.次年度以降の改善点・ご意見

■設問5-1 二次評価について、次年度に改善すべき点等があれば教えてください。

- ・評価する事業をもっと絞っても良いと思いました。
- ・負担は増えると思いますが、評価者も事前に事業を調べたり、条例を参照するなど、事業を聞いて事前に調べた内容を補完する形で進めるなど、評価者も事前にすべきであると思います。自分の業務がある中で、他課の事業をいつ、ど
- ・委員にもよるが、どうしても評価の場が批判の場になってしまう。
- ・予算の拡充・縮小等の評価の結果が確実に予算に反映されるものなのか不透明(反映されないなら意味がない。)

■設問5-2 二次評価に関するご意見・感想がありましたらご記入ください。

- ・評価者も知識や経験等が必要だと思います。

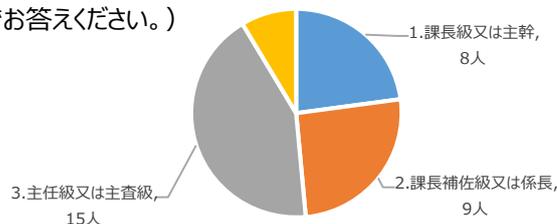
■ 令和6年度事務事業評価（二次評価）アンケート結果（説明者編） ■

回答数：35

1.職名について

■設問1 あなたの職名を教えてください。（10/1時点での職名でお答えください。）

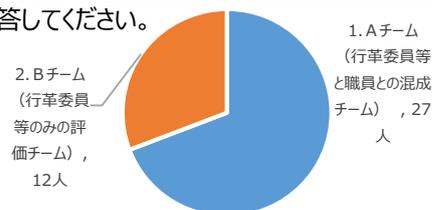
1.課長級又は主幹	8人
2.課長補佐級又は係長	9人
3.主任級又は主査級	15人
4.主事級	3人



2.二次評価への参加について

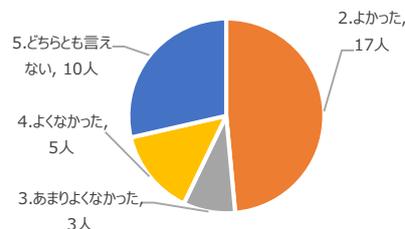
■設問2-1 どのチームの二次評価に参加しましたか？両方の場合は両方に回答してください。

1. Aチーム（行革委員等と職員との混成チーム）	27人
2. Bチーム（行革委員等のみの評価チーム）	12人
※10/18評価のみ	



■設問2-2 二次評価に参加してよかったですか？

1.とてもよかった	0人
2.よかった	17人
3.あまりよくなかった	3人
4.よくなかった	5人
5.どちらとも言えない	10人



※上記の回答を選択した理由を教えてください。

○よかった

- ・ 事業課以外の視点を得られたため。
- ・ 勉強になった。
- ・ 施設のあり方についても触れることが出来た。
- ・ 事業の実施状況を外の視点から見て客観的な意見をもらえるため。
- ・ 担当者としての生の意見が伝えられたから。
- ・ 行政改革委員の考え方等聞くことができた。
- ・ 担当業務の理解度向上と事業に関して客観的な意見をいただくことで重要性を再認識することができたため。
- ・ 様々な視点からの意見交換が行えた。
- ・ 行革委員の考え方（誤解）がわかったため。
- ・ 個別の事業に対する課題と改善案の感覚が確認できたため。
- ・ この部署に来たのは今年度のため、把握していない・まだやったことがない事業もある中で事業の説明するのはとても荷が重く、準備にかなりの時間を要しましたが、私にとっては、この課の仕事について勉強する良い機会になりました。

○あまりよくなかった／よくなかった

- ・ 評価を受けるような事業ではなかった。
- ・ ●●事業は事務事業評価、特に外部委員からの評価に性格的にそぐわない。理由は、事務事業評価のアンケートにて回答しております。
- ・ 行革委員と議論ができない。
- ・ 戦いの場ではないと言いつつ戦いの場になっており、負担感しかない。
- ・ 民主党の事業仕分けになっている。行革委員の中には、評価制度の目的をはき違えている感があります。事業の客観的評価において、質疑や委員からの提案はあっても良いが、今回の二次評価では「〇〇事業の条例改正を今年度中にすべき」等の指示、指摘は受けた。これは行き過ぎているので、改善してもらいたい。評価の結果はあくまでも、事業を継続する、止めるの判断材料でしかない。興奮して質問される委員がいる。議論を戦わせる場ではないという点も徹底してもらいたい。（※1）

- ・ 行革委員の意見はやはり厳しいものが多い。

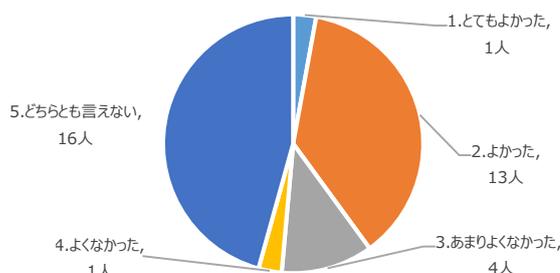
○どちらとも言えない

- ・ 事務事業評価の有効性を感じていないので、二次評価は負担にしただけ感じませんでした。
- ・ こちらの事業説明もわかりやすさや端的で十分でなかったと思いますし、評価者も意見をしにくい印象でした。
- ・ 担当事業について見直す機会となったが、評価者の発言力が大きく否定することができない部分も感じた。
- ・ 外部の意見を聞くことは必要と感じつつも、資料作成、当日のカンペ作りなど事前準備に時間が割かれる。
- ・ 事務手間が面倒なのです。
- ・ 新しい気付きはなかったが、機会としてはあってよいと思います。

3.二次評価の内容について

■ 設問3-1 評価シートの構成は分かりやすかったですか？

1.とてもよかった	1人
2.よかった	13人
3.あまりよくなかった	4人
4.よくなかった	1人
5.どちらとも言えない	16人



※上記の回答を選択した理由を教えてください。

○よかった

- ・ 他の業務で引用できるよう作られている。
- ・ 説明員として何度も経験してきた経験もあると思いますが、分かりやすく感じています。様式として洗練されていると思います。
- ・ 事業目的→効果→分析と、流れに沿って説明ができたため。

○あまりよくなかった／よくなかった

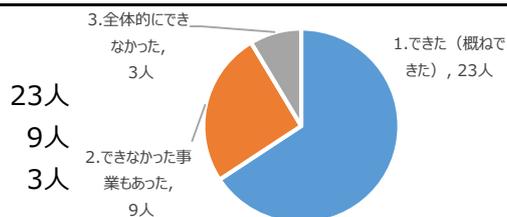
- ・ 評価項目が多く、同じような内容を記入していたように思います。項目を減らし、もっとシンプルになるとわかりやすくなると思います。
- ・ ○△×を付す評価項目ですが、内容が理解しづらい。(前から感じていたが)
- ・ 都度都度シートの修正はなるべくやめてほしい。提出資料の簡素化を望む。

○どちらとも言えない

- ・ 評価シートの良し悪しは、評価する側が判断するものかと思います。
- ・ 判断できないため。
- ・ 比較対象する別のシートがないので分からない。
- ・ このシートに慣れてきつつあるのかなと感じます。
- ・ 毎年シートを変更されそれに合わせて作成し直すため、労力がかかるという思いしかない。良いかどうか判断するに至らない。
- ・ 設問の意味がよくわかりません。
- ・ 二次評価は初めてだったため、評価シートの構成の前に、そもそも何も分からないので何とも言えません。ですが、担当者が事業を振り返りやすい構成にいただいているのではないかと思います。
- ・ 記載には慣れてきたが、とても手間である。ここまで細かく記載する必要があるのか疑問。
- ・ なんともしない。

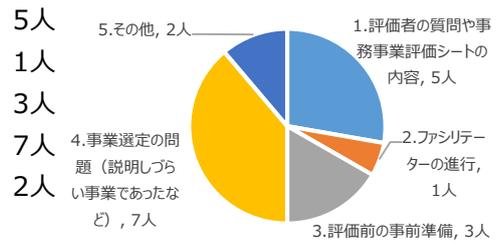
■ 設問3-2 評価者と十分な意見交換ができましたか？

1.できた（概ねできた）	23人
2.できなかった事業もあった	9人
3.全体的にできなかった	3人



■設問3-3 設問3-2で「2.できなかった事業もあった」「3.全体的にできなかった」と回答された理由を教えてください。（複数回答可）

1. 評価者の質問や事務事業評価シートの内容
2. ファシリテーターの進行
3. 評価前の事前準備
4. 事業選定の問題（説明しづらい事業であったなど）
5. その他



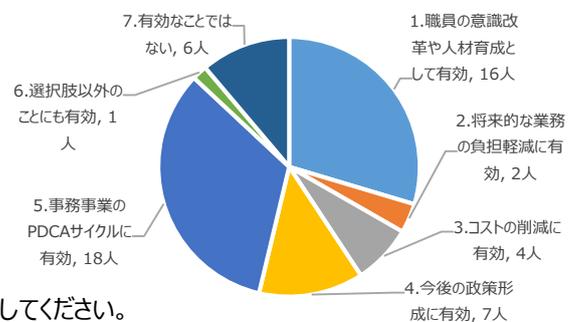
※上記で「5.その他」を選択した場合、その内容を記載してください。

- ・ ●●事業は事務事業評価、特に外部委員からの評価に性格的にそぐわない。外部委員からの質問や意見はほとんど見当外れなものばかりであり、かつ●●省への報告の関係で経費に関してはオープンにしづらいことも多く、説明に窮した。
- ・ 時間不足＝十分な議論できるとはいいがたいタイムスケジュールのため。
- ・ 設問2-2（※1）のとおり

4.二次評価の有効性について

■設問4-1 二次評価は行財政経営マネジメントにとって有効だと思いませんか？（複数回答可）

1. 職員の意識改革や人材育成として有効 16人
2. 将来的な業務の負担軽減に有効 2人
3. コストの削減に有効 4人
4. 今後の政策形成に有効 7人
5. 事務事業のPDCAサイクルに有効 18人
6. 選択肢以外のことにも有効 1人
7. 有効なことではない 6人



※上記で「6.選択肢以外のこと」を選択した場合、その内容を記載してください。

- ・ 意識の醸成という点では有り。

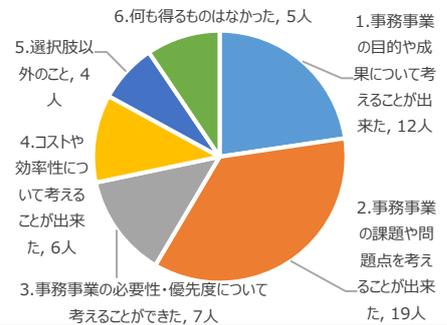
※上記の回答を選択した理由を教えてください。（カッコ内の数字は選択肢の番号）

- ・ 毎年度評価シートを作成することにより、事業の理解促進、経年変化を含めた振り返りの機会になる。（1, 3, 5）
- ・ 事務事業評価がマネジメントに及ぼす影響・効果があまりよくわからないため。（結局、理事者や議会の判断にゆだねられる）。説明員の負担にしか感じない。準備にかかる勤務時間増と事務事業評価による効率化が全く見合っていないと思う。（7）
- ・ ●●事業に関してのみの回答。他の事業については、1～5いずれにおいても有効性があると考えております。（7）
- ・ きっちりフィードバックができるような仕組みになっていれば有効だと思うが同じことの繰り返しになっているように感じた。
- ・ 実施事業のPDCAサイクルは必要。第三者からの他角的な意見をもらい、改善の意識をもって事務にあたるのは事務事業評価の良いところだと思います。（1, 5）
- ・ 振り返り次に活かすことは必要だと思うため。（1, 4）
- ・ 現時点ではどうしても職務に負荷がかかっているように感じてしまうが、将来的な展望としては有効だと思うから。（1, 4, 5）
- ・ 外部の詳細な意見、一般的な観点がわかる。（1, 4）
- ・ 仕事をする上での意識づけや、他課がどのような仕事をしているかを学ぶ機会として有効と考えます。（1）
- ・ 前向きな姿勢で取り組めるものではない。（7）
- ・ 事業担当課と財政だけでは、過年度からの事業の継続性等あり、事業効果を図りきれないこともあるかと思うので、外部委員等客観的な意見をいただき、担当職員にとっても事業担当課にとっても事業を見つめなおす機会となっていると思います。また、予算要求時の参考にすることができるため。（1, 5）
- ・ 業務を振り返ることでPDCAサイクルに有効なだけでなく、自分の業務について多角的な視点で考え、業務をこなすだけでは得られない意識を持つことができると感じました。また、コストについて焦点が当たっていましたが、実際に業務を行っている担当者が、現実的にできるコスト削減を考える良い機会になると感じました。ただ、理想と現実はかなりかけ離れていることを知りました。（3, 5）

- ・ 課内以外の方の意見や評価を聞くことは、有効だと考えますが、明らかに事務量が近年増加しており、毎年小規模市町村の新規採用職員の確保が困難になる中、求めても職員は減っていく一方であり、この先10年後の職員体制や仕事ぶりをイメージするとこの事務量では残業が必須と考えます。この点では、事務事業評価を同じ形で続けていくことは疑問です。全国他市町も同じような評価方法を取り入れているのでしょうか。(4)
- ・ 誰でも楽に業務をこなしたいですから。(6)

■設問4-2 二次評価に参加して得られたことはありましたか？(複数回答可)

- 1. 事務事業の目的や成果について考えることが出来た 12人
- 2. 事務事業の課題や問題点を考えることが出来た 19人
- 3. 事務事業の必要性・優先度について考えることができた 7人
- 4. コストや効率性について考えることが出来た 6人
- 5. 選択肢以外のこと 4人
- 6. 何も得るものはなかった 5人



※上記で「5. 選択肢以外のこと」を選択した場合、その内容を記載してください。

- ・ 事務事業評価の課題を考えることができた。
- ・ 違う視点での意見を聴くことができたこと。
- ・ 事業を推進する上で、住民に伝えていても伝わっていない状況があることが得られた。
- ・ 評価者との質疑を通じて、事業ごとに町民、事業者目線の声を聞くことができる点は、良い評価、悪い評価は別として、必要なことかと思えます。

※上記の回答を選択した理由を教えてください。(カッコ内の数字は選択肢の番号)

- ・ 事業を見つめ直す機会になる。(1, 2, 4)
- ・ もちろん有益な意見もいただけたが、特に事務事業評価でなくても役場内の協議の過程でも得られる程度のものであった。事務事業評価の準備負担に見合うものではない。(6)
- ・ ふるさと納税事業に関しては、外部委員からの質問や意見はほとんど見当外れなものばかりであり、最後まで理解されていない様子の委員の方が多かった。(6)
- ・ 担当者以外の視点での意見を聞くことができたから。(2)
- ・ 外部の詳細な意見、一般的な観点がわかる。(1, 2)
- ・ もちろん得られることも多いと思うが、このような事業評価制度を受けることに苦手な職員も多々あると思うので、可能なかぎり職員が負担に感じないような工夫が必要であると感じる。(1, 2)
- ・ それなりに再考する機会として。(2)

5. 次年度以降の改善点・ご意見

■設問5-1 二次評価について、次年度に改善すべき点等があれば教えてください。

- ・ 毎年度あることなので、作成の依頼自体は、年度当初にされてもよいのでは。(実際に作成にとりかかるのはシートの様式ができてからになると思いますが)
- ・ 事務事業評価そのものを評価すべきと思う。ファシリテーターは企画財政課だったと思うが、評価委員の意見が分かれた時の意見をまとめる役割を十分果たすことなく、まるで評価者の立場になって質問をしてくるのを止めてほしい。
- ・ ●●事業に関しては、二次評価の対象外、少なくとも外部委員からの評価の対象外とすべきと考えます。
- ・ 事務局が二次評価者と混同している。現状、時間的余裕がない中では担当課として整理したというより、この評価があるから担当者は行かされたとなっている。事務局は担当課任せにせず、事務事業評価がしっかり反映されるような場、仕組み作りが必要だと思う。
- ・ 時間割で最後の事業になっていましたが、かなり時間が押していて、その間の待ち時間もつたいないと感じました。説明時間に手間取るのか、議論に時間がかかっているのか、時間配分にも気を配っていただけると皆さん助かると思います。
- ・ 行革委員が、事務事業評価についての勉強会をすべき。
- ・ 負担が大きくメリットを感じない。事務事業評価の取組についての事務事業評価をしてほしい。
- ・ そろそろ評価委員さんも変わられてもよいのでは？程度の問題はあるが、色々な方の意見を聞くことも大事では…
- ・ 特にありません。このままでよいと考えます。

- ・ 余裕を持ったタイムスケジュール。難しければ評価対象事業を少なくし1事業当たりの時間配分を長くする。
- ・ 設問2-2のとおり（※1）
- ・ 予算付けや事業継続方針など 単に一職員や一課では事業の廃止などすることができないこともある。蛇の生殺しではなく、職員数も限られる中、やめるべき事業はあっさりやめるという行革も必要である。

■ 設問5-2 二次評価に関するご意見・感想がありましたらご記入ください。

- ・ 優先度が低い事業の削減に至っていないように思います。
- ・ 事務事業評価自体は必要で有効とは思いますが、●●事業に関しては当てはまらないと考えます。その分外部委員からの評価の時間、準備の時間は無駄に感じてしまったというのが正直なところです。
- ・ 良い取組だと思うので、ぜひ続けてください。
- ・ もうそろそろ休んでもいいのではないのでしょうか。。
- ・ 担当事業について見直す機会となったが、評価者の発言力が大きく否定することができない部分も感じた。
- ・ 行革委員の皆さんには大変な事務量でお世話になっており、頭の下がる思いです。
- ・ 翌年度予算要求時のヒアリングや査定の中で、財政による事務事業評価を受けているように思います。
- ・ 限られた財源の中でコスト削減も考えないといけないことはわかりますが、見込は見えたとしても一担当者ではどうにもならないことを見直すことは無理があります。全国同一の事業については省いてほしいと思います。
- ・ 設問2-2のとおり（※1）
- ・ 評価シート作成者（説明者）の準備不足がすべてを占めていますが、特に行革委員さんのみの回では、対話というよりも一方的に言われ、事業自体を否定されているように受け止め、ちょっとしんどい気持ちになりました。
- ・ 予算はないものの町に取って必要な施策・事業も中にはあると思う。そのあたりの評価は見過ごされがちではないか。
- ・ 事務事業の改善もありますが、職員の資質向上が期待できると思います。追求型ではなく、引き続き政策形成型の議論の場になることを望みます。